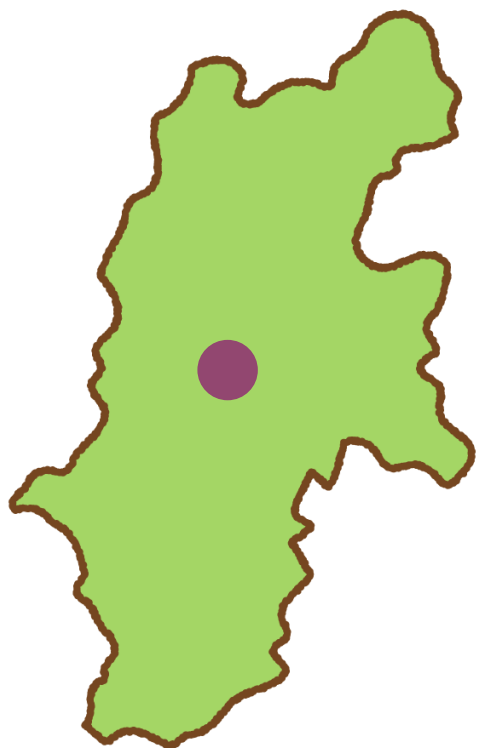


「ひろおか奨善塾」による 地域とのつながりの深化

長野県 塩尻市立広丘小学校PTA





塩尻市

長野県のほぼ中央に位置し、北アルプスの山並みに田園風景が広がるのどかなまち。ぶどう栽培にも適しており、ワインの銘醸地としても知られている。



広丘地区

善光寺街道の宿場町として栄え、宿場の面影を残す建物も多い。

明治時代には多くの歌人が活躍したことから、『短歌の里』と呼ばれ親しまれている。



広丘小学校の紹介

学校目標「正しく 強く 美しく」

我らが学校に学ぶは正しく，強く，美しい心
を得んがためなり。

- 歌人 島木赤彦が校長の時に制定した“新校訓「奨善会」”の精神が、今も教育の柱として引き継がれている。児童会を「奨善会」と呼ぶなど、子どもたちにも親しまれている。
- “公事(公共に尽くすを喜ばむべし)” の精神を大切にし、自ら進んで良いことをする心を誇りとしている。



子どもたちは短歌を授業で詠むなど、
短歌との結びつきを感じながら、
伝統を大切にして学びあっている。

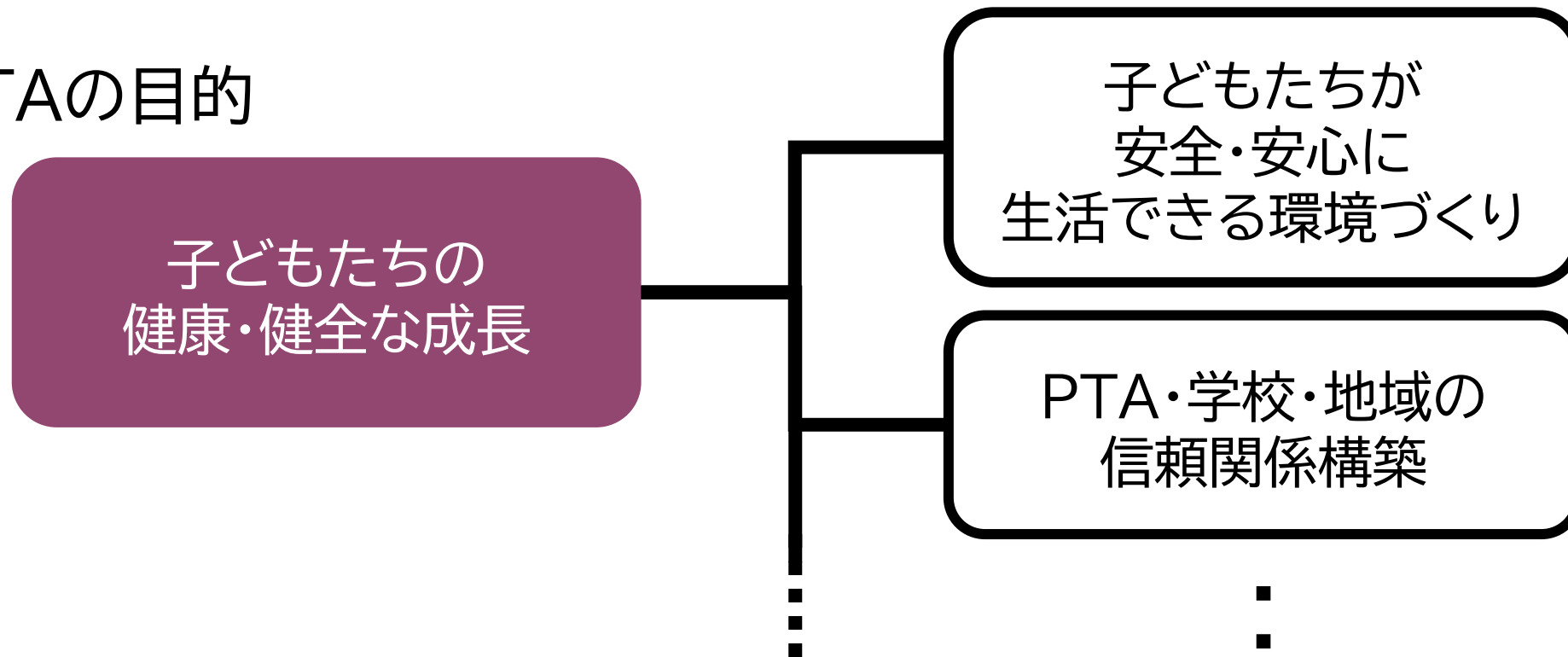
ひろおか奨善塾

- 平成9年に学校開放講座として開講
- PTA、学校、公民館の共同活動として実施
- 児童・保護者、地域住民と一緒に学習し、つながり合う機会
- 地域を大切にし、地元のお店や団体に協力頂いている
(和菓子作り、そば打ち、地域巡りなど)



研究テーマ設定の背景

PTAの目的



子どもたちと地域とのつながりが重要

研究テーマ設定の背景

●地域の現状

- 共働き世帯の増加
- 過干渉を避ける考え
- 高齢化地域の増加

地域のつながりが
希薄化してきている



PTAとしても子どもたちのために何かしたい・・・

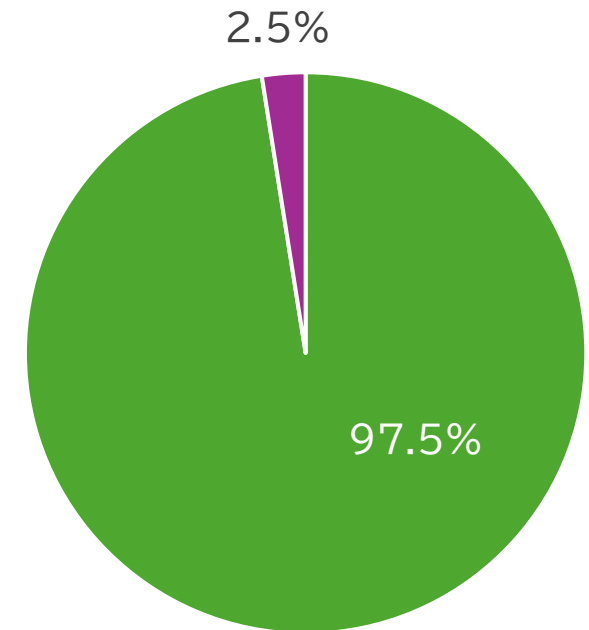
「ひろおか奨善塾」を活用して
地域とのつながりを深められるのでは！



「ひろおか奨善塾」の現状把握

講座	和菓子作り、そば打ち、地域巡り等
実施場所	学校 地域のコミュニティセンター
参加費用	参加費無料、材料費のみ負担
告知方法	小学校の関係者に学校を通じて資料配布 地域には公民館より回覧板で通知

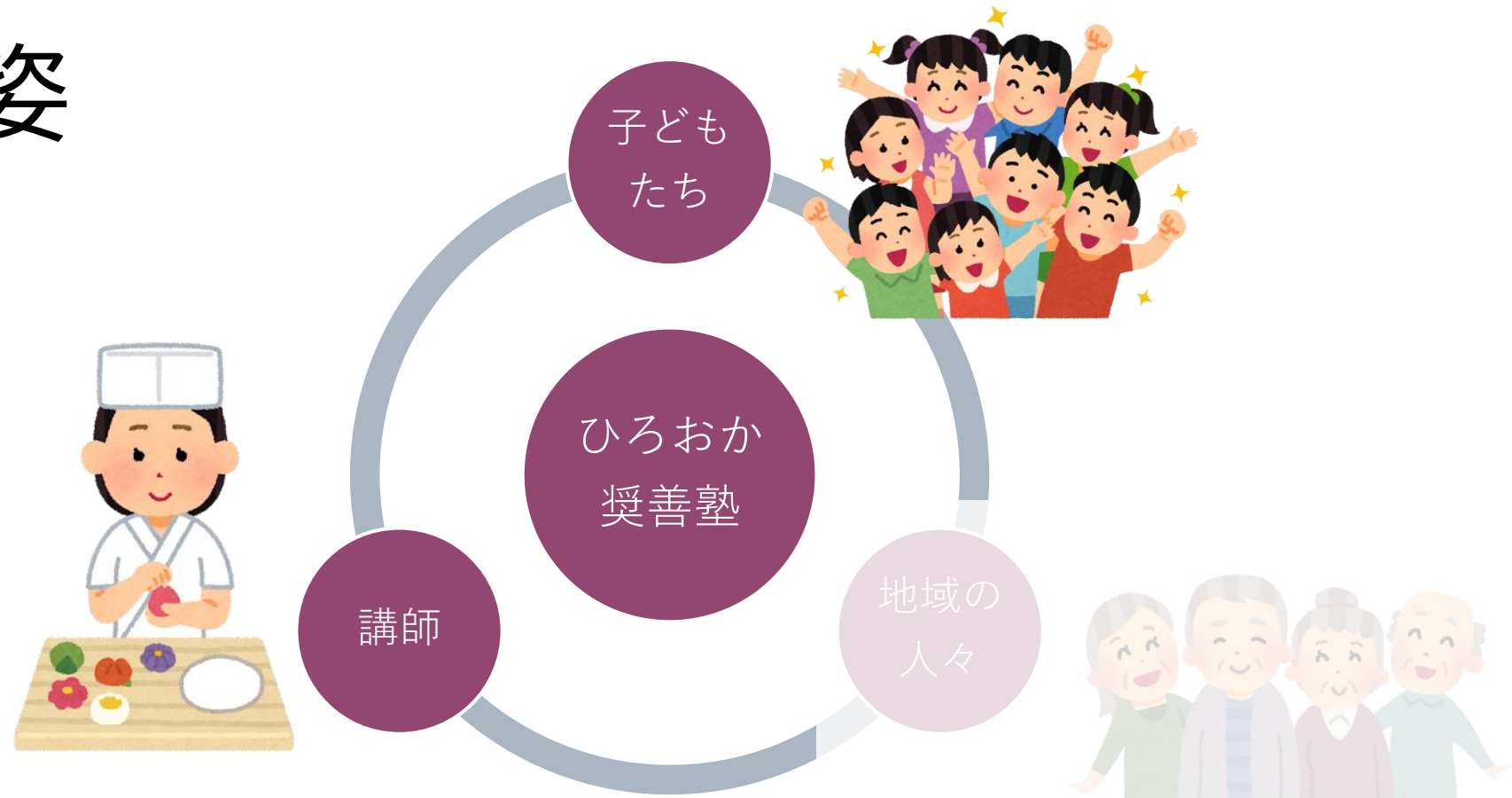
R5年度参加者の内訳



■ 広丘小学校関係者 ■ 地域の方々

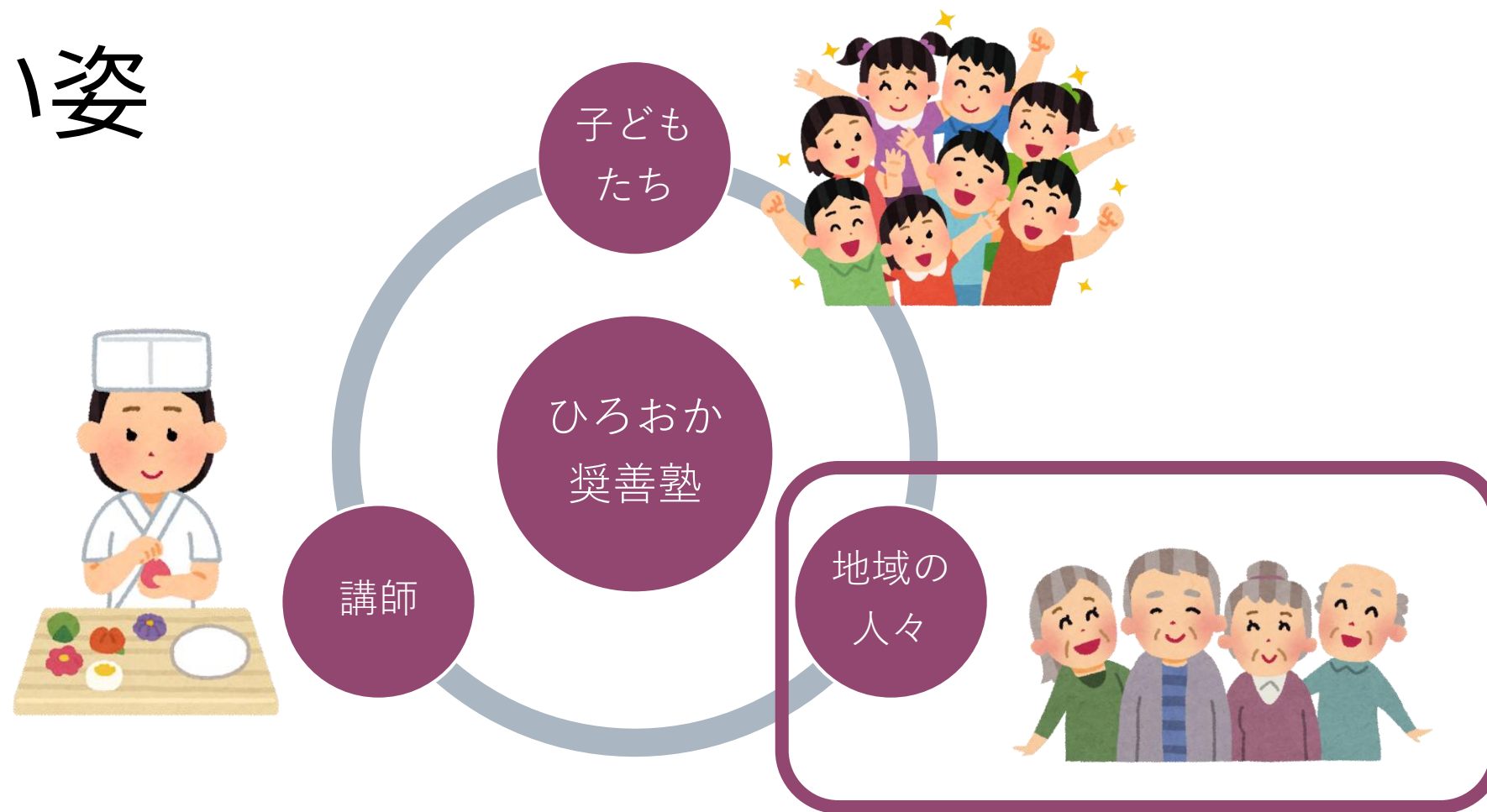
- 参加者の満足度は高く、地域の理解を深める場になっている
- 奨善塾への地域からの参加者はまだまだ少ない

現状の姿



地域の人々とのつながりは薄く、
子どもたちと講師との間のつながりに留まっている。

ありがたい姿



「ひろおか奨善塾」へ地域からの参加者が増え、
人々とのつながりが深まっている

対応の方向性

どうして地域の参加者が少ないのか？

- ① 「ひろおか奨善塾」が知られていない
- ② 講座への関心が低い
- ③ 日程や実施場所が合わない
- ④ その他の理由



地域への連絡手段は回覧板のみ。
まだ地域への周知が不足していると仮説を立てた。

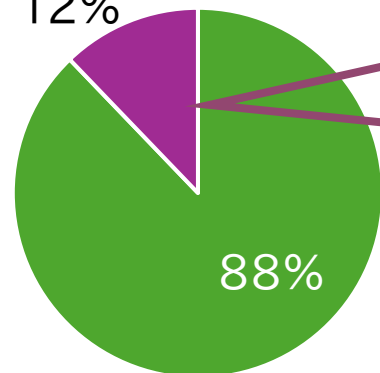
方策

公民館と周知方法を検討し、下記内容の実施を決定

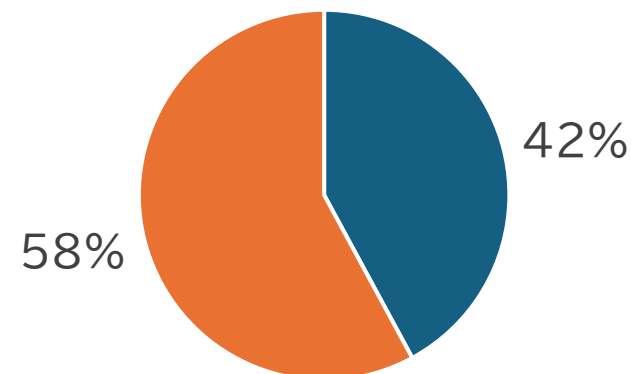
- ① 地域の新聞「市民タイムス」への記事掲載
- ② 塩尻市公式ホームページへの掲載
- ③ 塩尻市広報誌「広報しおじり」への掲載
- ④ 塩尻市公式LINEでの発信
- ⑤ 公民館だより(回覧板)の継続

申し込み状況の変化

〔申込者の内訳〕 12%



■ 広丘小学校関係者 ■ 地域の方々



■ 校区 ■ 校区外

- 地域からの申込者が12%へと大幅に増加
- 広丘小学校からの校区外からも申し込みがあった

地域の方々が目にする媒体を活用した効果

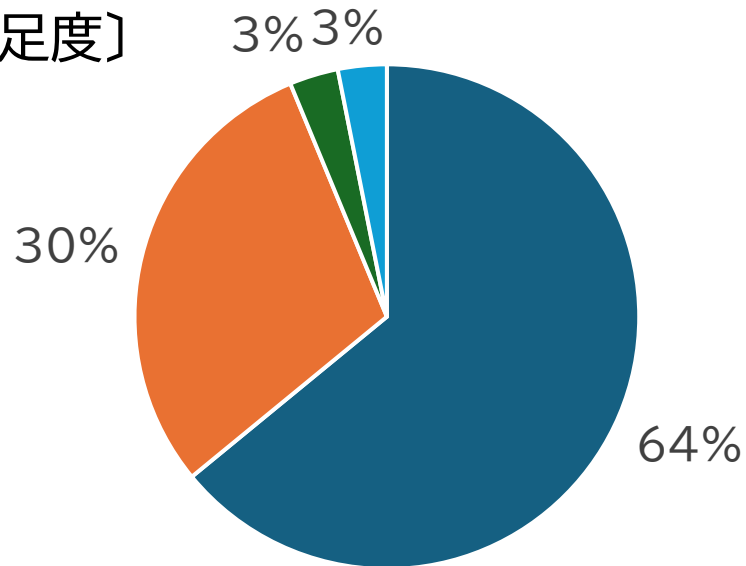
当日の様子



8講座に164名(その内、地域からは17名)が参加

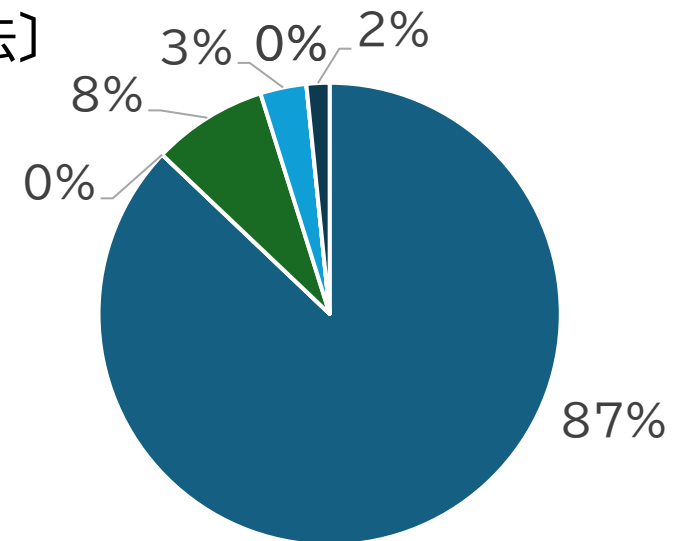
参加者アンケートの結果

〔満足度〕



■ 大変良かった ■ 良かった ■ 普通 ■ 期待通りでなかった

〔開催を知った方法〕



■ 学校のおたより
■ 塩尻市LINE
■ その他

■ 回覧板
■ 市民タイムス

■ 塩尻市広報
■ 知り合いからの誘い

- 地域からの参加者も含め満足度の高い機会になった
- 広報誌やSNSが周知・申し込みにつながった

研究のまとめ

- 「ひろおか奨善塾」を活用し、地域と子どもたちとのつながりを深めることを目的に研究を実施。
- 地域からの参加者が少ない状況に対し、周知が不足しているという仮説から様々な媒体での周知を実施。
- 市の広報誌やSNSによる発信は、地域の方々への周知に有効であった。
- 地域の方々の満足度も高く、子どもたちとのつながりを深める取り組みにつなげていける可能性を感じた。

今後の課題

- ありたい姿の実現に向けて、子どもたちと地域の方々の接点から、交流の場へと深化させていく。
- 地域の方々が持つ経験や知識など、“できること”を講師として教えて頂けるような仕組みを考えていく。
- PTA、公民館だけでなく、コミュニティスクールや学校運営協議会も巻き込んだ活動にできないか検討していきたい。

